



2026(令和8)年 8月1日

第 17 号

編集
発行名古屋市保健所
感染症対策・調査センター

〒463-8585

名古屋市守山区桜坂四丁目207番地

電話 737-3712 FAX 736-1102

Mail a7373711-07@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp



ホームページ



X(旧Twitter)



YouTube

【夏に流行る三大感染症】 症状と予防

どういう病気？

手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱 (プール熱)
		
【主な症状】 手・足・口に発疹 比較的軽い発熱	【主な症状】 突然の高熱 のどの強い痛みと奥に水ぶくれ	【主な症状】 高熱 のどの痛み 目の充血や目やに
【感染経路】 飛沫感染(咳やくしゃみ) 接触感染 糞口感染(便に触れた手指から経口へ)	【感染経路】 経口感染、糞口感染(便に触れた手指から経口へ) 接触感染 飛沫感染(咳やくしゃみ)	【感染経路】 飛沫感染(咳やくしゃみ) 接触感染

なぜ夏に夏風邪が流行するのか？

■ ウイルスが増えやすい環境

夏風邪を引き起こすウイルスは、夏の高温多湿の環境で活動が活発になります。

■ 免疫力の低下

夏バテや睡眠不足、冷房による冷えで抵抗力が低下します。

■ 人との接触が増える

プールや夏のイベントなどで人の接触が多くなると感染が広がりやすくなります。

かからないようにするためには？



① 手洗い・うがい、タオルの使い分け

夏風邪のウイルスはアルコール消毒が効きにくいいため、手洗い・うがいなどの基本的な感染対策が重要です。タオルを個人で分けることも効果があります。

② 免疫を高めよう

生活リズムを整え、バランスの良い食事、こまめな水分補給を心がけましょう。



③ 感染症対策

人と接することが多い場合、マスクなど使った感染症予防や換気をし、お互いにうつらないよう工夫をしましょう。



令和7年度スズメバチ生息調査結果について

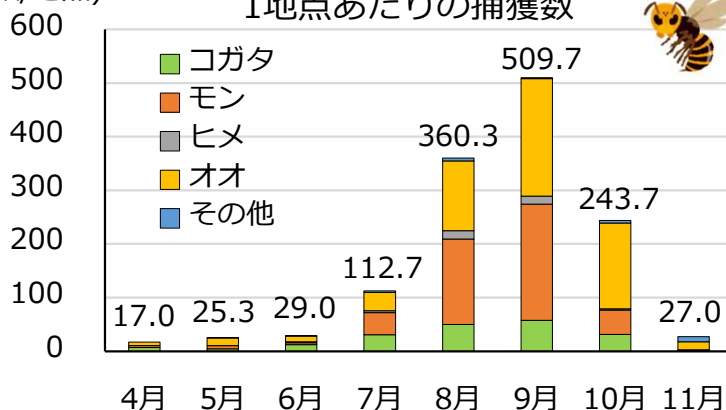
夏はスズメバチの活動が活発になり攻撃性も高まります。当センターでは誘引トラップを用いて、種類や捕獲数などスズメバチの生息状況調査を実施しています。

令和7年度生息状況調査結果

令和7年度は4月から11月まで3地点(緑区、名東区、守山区)で調査を行い、合計で3,974頭を捕獲しました。捕獲数は多い順にオオスズメバチ、モンズズメバチ、コガタスズメバチでした。役割別では、巣作りを始める春は女王バチ、夏は働きバチ、夏の終わり頃から秋は働きバチに加えてオスバチが捕獲されました。

(頭/地点)

1地点あたりの捕獲数



スズメバチの大きさ

スズメバチには様々な種類がいます。その中から体長が最も大きいとされるオオスズメバチと市街地でもよくみかけるコガタスズメバチの大きさを、調査で捕獲された個体で比較しました。



今回の調査で捕獲されたオオスズメバチの女王バチは約5cm、働きバチは約3cmでした。

また、オオスズメバチの働きバチとコガタスズメバチの女王バチの大きさはほぼ同じでした。

(オオスズメバチ)

センターからのお知らせ



イノシシが出没しました！



当センター敷地内で、イノシシが出没しました。掘り返し跡や動物の糞が散見されたので夜間にカメラを設置したところ、大型のイノシシが写りました。日本各地でイノシシの生息地拡大が取り沙汰されていますが、名古屋市も例外ではありません。

当センターでは草刈りをして隠れ場所を排除したり、夜間にLED照明を使ってイノシシが寄り付かないように対策しています。

イノシシ自体の危険性もさることながら、イノシシに寄生したマダニにも注意しなければなりません。当センターでは、定期的にマダニ生息調査を行って、市内の生息状況の把握に努めています。



夜間に活動するイノシシ
(名古屋市衛生研究所より提供)

『感染症対策・調査センターだより』は、名古屋市公式ウェブサイトで創刊号からご覧いただけます。
「感染症対策・調査センター」で検索していただくか、右のQRコードをご利用ください。

